



CHAPTER 7

Cisco Secure Access Control システムのアップグレード

この章では、ACS 展開を 5.1 から 5.2 にアップグレードして、単一の ACS サーバを ADE-OS 1.2 と ACS 5.2 にアップグレードする手順について説明します。



(注)

ACS 5.0 を使用している場合は、まず ACS 5.1 にアップグレードしてから ACS 5.2 にアップグレードします。ACS 5.0 から ACS 5.1 へのアップグレード手順については、『*Installation and Upgrade Guide for the Cisco Secure Access Control System 5.1*』を参照してください。



(注)

ACS 5.1 がインストールされた状態で ACS 5.2 をインストールすることはできません。既存の 5.1 インストールをバックアップし、5.2 を使用してアプライアンスを再イメージ化してから、5.1 のバックアップを復元する必要があります。

この章のシナリオは次のとおりです。

- 「ACS 展開の 5.1 から 5.2 へのアップグレード」(P.7-2) : ACS 展開を 5.1 から 5.2 にアップグレードする手順。
- 「ACS Monitoring and Report Viewer のアップグレード」(P.7-10) : ACS Monitoring and Report Viewer のアップグレード時に必要なプロセス。
- 「ACS サーバの 5.1 から 5.2 へのアップグレード」(P.7-11) : ACS サーバの 5.1 から 5.2 への差分アップグレードを行う手順。
- 「ACS アプリケーションのバックアップと復元」(P.7-12) : ACS 5.1 アプリケーション データをバックアップし、ACS 5.2 で復元する手順。
- 「ACS サーバの 5.0 から 5.1 へのアップグレード」(P.7-13) : ACS サーバを 5.0 から 5.2 にアップグレードする手順。
- 「ACS パッチの適用」(P.7-14) : アップグレード パッチをダウンロードして適用する手順。

アップグレード プロセスでは、データベースに Monitoring and Report Viewer と設定情報が含まれる ACS サーバのアップグレードが必要です。

ACS はアップグレード プロセス中に ACS サーバを 5.2 にアップグレードし、データを ACS 5.2 サーバに復元します。復元操作の一部として、ACS は設定データを 5.2 互換の形式に変換します。

ACS は、データのアップグレードに関する情報を /opt/CSCOacs/logs/acsupgrade.log に格納します。このログ ファイルの内容を表示するには、サポート バンドルをダウンロードします。サポート バンドルのダウンロードの詳細については、『*CLI Reference Guide for the Cisco Secure Access Control System 5.2*』を参照してください。また、ACS CLI で実行されたすべての操作の詳細が記録されている、/var/log/ade/ADE.log も参照してください。

ACS を 4.x から 5.2 に移行するには、『*Migration Guide for the Cisco Secure Access Control System 5.2*』で説明されている移行手順に従う必要があります。

ACS アップグレードを実行するには、(TFTP リポジトリではなく) FTP、NFS、または SFTP ネットワーク サーバで設定されたリポジトリが必要です。

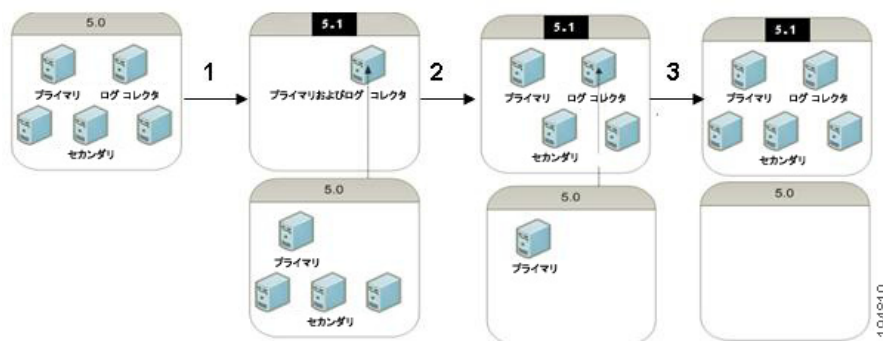
リポジトリを作成するには、**repository** コマンドを使用します。この章で使用されるコマンドの詳細については、『*CLI Reference Guide for the Cisco Secure Access Control System 5.2*』を参照してください。

ACS 展開の 5.1 から 5.2 へのアップグレード

ACS 5.1 配置を 5.2 にアップグレードするには、このセクションで説明されている手順に従ってください。配置のアップグレード プロセスは次のフェーズからなり、[図 7-1](#) に示されています。

- 「ログ コレクタ サーバのアップグレード」 (P.7-3)
- 「セカンダリ サーバのアップグレード」 (P.7-6)
- 「プライマリ サーバのアップグレード」 (P.7-8)
- 「PKI データおよび証明書のアップグレード」 (P.7-9)
- 「セカンダリ サーバのプライマリへのプロモート」 (P.7-10)

図 7-1 ACS 展開のアップグレード



(注)

ACS では、ACS 5.1 配置と 5.2 配置の間の相互運用性はサポートされていません。

複数のサーバの配置シナリオでは通常、ACS プライマリ サーバが設定データのマスター データベースとして機能し、セカンダリ サーバは監視およびレポート データを格納します。このセットアップにはいくつかの例外があります。これは、次に説明されているように対処できます。

- ACS 5.1 プライマリ サーバが 5.1 配置でログ コレクタとしても機能する場合は、配置でセカンダリ サーバの 1 つのためにプライマリ サーバを交換する必要があります。「[セカンダリ サーバのプライマリへのプロモート](#)」 (P.7-10) を参照してください。

- 5.1 配置に 2 つのサーバだけが含まれている場合は、配置のアップグレードプロセスにリストされている 2 番目のステップ（セカンダリ サーバのアップグレード）をスキップできます。



(注)

バックアップ データのサイズが大きい場合は、抽出プロセスに 1 時間以上、場合によっては何時間も掛かることがあります。

ログ コレクタ サーバのアップグレード

最初に、ログ コレクタ サーバを ACS 5.2 にアップグレードして、すべてのサーバの 5.2 アップグレードが完了するまで、このサーバを ACS 5.1 配置と 5.2 配置間の共通のログ コレクタとして使用します。

セカンダリ サーバとして機能するログ コレクタ ノードをアップグレードできます。ただし、プライマリ サーバがログ コレクタとしても機能する場合は、5.1 配置のプライマリの役割を果たすようにセカンダリ サーバをプロモートして、プライマリ サーバをセカンダリに変更し、セカンダリ サーバ（プライマリからセカンダリに変更されたサーバ）を 5.2 にアップグレードする必要があります。

セカンダリ サーバをプライマリとしてプロモートするには、「[セカンダリ サーバのプライマリへのプロモート](#)」(P.7-10) を参照してください。

ログ コレクタを 5.2 にアップグレードするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ログ コレクタ データをバックアップします。
- ログ コレクタ データは、ローカル ディスクではなく、リモート サーバにバックアップする必要があります。
- ACS CLI から、EXEC モードで次の **backup** コマンドを発行して、バックアップを実行して、バックアップをリポジトリに入れます。
- ```
backup backup-file-name repository repository-name
```
- ステップ 2** プライマリ サーバで設定されたログ コレクタを変更します。
- 5.1 配置内の別のセカンダリ サーバをログ コレクタとして割り当てて、これをプライマリ サーバに割り当てます。
- a. ACS Web インターフェイスから、[System Administration] > [Configuration] > [Log Configuration] > [Log Collector] を選択します。  
[Log Collector] ページが表示されます。
  - b. [Select Log Collector] ドロップダウン リスト ボックスから、5.1 配置のログ コレクタとして設定する別のセカンダリ サーバを選択します。
  - c. [Set Log Collector] をクリックします。
- ステップ 3** 新たに割り当てたログ コレクタの CLI から、**show application status acs** コマンドを実行して、すべての ACS プロセスが実行中であることを確認します。
- ステップ 4** バックアップ リポジトリから新規の 5.2 ログ コレクタにログ コレクタ データを復元します。
- EXEC モードで次の **restore** コマンドを実行します。
- ```
restore backup-file-name repository repository-name
```
- ステップ 5** 古いログ コレクタ サーバを配置から登録解除して、スタンドアロン サーバになるように ACS 5.1 プライマリから削除します。
- a. ACS 5.1 プライマリ サーバの Web インターフェイスから、[System Administration] > [Operations] > [Distributed System Management] を選択します。

[Distributed System Management] ページが表示されます。

- b. [Secondary Instances] テーブルから、登録解除するセカンダリ インスタンスの横にあるチェックボックスをオンにします。

- c. [Deregister] をクリックします。

システムに次のメッセージが表示されます。

This operation will deregister the selected ACS Instance from the Primary Instance.

Do you wish to continue?

- d. [OK] をクリックします。

ACS マシンが再起動します。

- e. ACS 5.1 プライマリ サーバにログインします。

- f. [System Administration] > [Operations] > [Distributed System Management] を選択します。

- g. [Secondary Instances] テーブルから、削除する登録解除済みのセカンダリ インスタンスの横にあるチェックボックスをオンにします。

- h. [Delete] をクリックします。

次のメッセージが表示されます。

Are you sure you want to delete the selected item/items?

- i. [OK] をクリックします。

[Distributed System Management] ページに、削除されたセカンダリ インスタンスのない [Secondary Instances] テーブルが表示されます。

- ステップ 6** ACS 5.1 データ（設定および監視）をバックアップし、リモート リポジトリに保存します。

EXEC モードで次の **backup** コマンドを実行して、データをバックアップします。

backup backup-name repository repository-name



(注) バックアップの前に、最新の ACS 5.1 パッチをインストールする必要があります。「ACS パッチの適用」(P.7-14) を参照してください。

- ステップ 7** 「ACS サーバの再イメージ化」(P.5-6) を実行します。

ACS が ACS 5.2 にアップグレードします。

- ステップ 8** バックアップしたデータを置くリポジトリを設定します。

- ステップ 9** ACS 5.1 のデータを ACS 5.2 サーバに復元します。

EXEC モードで **restore** コマンドを実行して、以前に作成したバックアップを復元します。

restore filename repository repository-name

ACS 5.1 設定データを復元する間に、ACS 5.1 Monitoring and Report Viewer データが 5.2 形式へ変換され、アップグレードされます。

- ステップ 10** 5.1 配置のプライマリ サーバで、5.2 ログ コレクタ サーバのリモート ログ ターゲットを定義します。

- a. [System Administration] > [Configuration] > [Log Configuration] > [Remote Log Targets] を選択します。

[Remote Log Targets] ページが表示されます。

- b. [Create] をクリックします。

[Create] ページが表示されます。

c. 次のフィールドに値を入力します。

- [Name] : リモート ログ ターゲットの名前。最大長は 32 文字です。
- [Description] : (省略可能) リモート ログ ターゲットの説明。説明の最大長は 1024 文字です。
- [Type] : リモート ログ ターゲットのタイプ。[Syslog] は唯一のオプションです。
- [IP Address] : x.x.x.x 形式のリモート ログ ターゲットの IP アドレス。5.2 ログ コレクタ サーバの IP アドレスを指定します。
- [Use Advanced Syslog Options] : ポート番号、ファシリティ コード、および最大長を含む詳細 Syslog オプションをイネーブルにする場合にクリックします。
- [Port] : ACS とリモート ログ ターゲット間の通信チャネルとして使用するリモート ログ ターゲットのポート番号 (デフォルトは 514)。ポート番号には 20514 を入力します。
- [Facility Code] : (省略可能) [Facility Code] ドロップダウン リスト ボックスからオプションを選択します。
- [Maximum Length] : リモート ログ ターゲット メッセージの最大長。有効なオプションは 200 ~ 1024 です。

d. [Submit] をクリックします。

リモート ログ ターゲット設定が保存されます。新しいリモート ログ ターゲット設定が示された [Remote Log Targets] ページが表示されます。

これで、5.1 配置からの認証の詳細が 5.1 ログ コレクタ サーバと 5.2 ログ コレクタ サーバの両方に記録されます。

ステップ 11 5.1 プライマリ サーバでは、リモート ログ ターゲットに適したロギング カテゴリを設定します。

a. [System Administration] > [Configuration] > [Log Configuration] > [Logging Categories] > [Global] を選択します。

[Logging Categories] ページが表示されます。このページから、ロギング カテゴリを表示できます。

b. 設定するロギング カテゴリの名前をクリックします。

または

設定するロギング カテゴリの名前の横のオプション ボタンをクリックし、[Edit] をクリックします。

c. [General] タブで、次のフィールドに入力します。

- [Log Severity] : ドロップダウン リスト ボックスを使用して、重大度レベルを選択します。有効なオプションは [FATAL]、[ERROR]、[WARN]、[INFO]、および [DEBUG] です。
- [Log to Local Target] : ローカル ターゲットへのロギングをイネーブルにする場合にオンにします。
- [Local Target is Critical] : このローカル ターゲットをクリティカル ターゲットにする場合にチェックボックスをオンにします。アカウントと Authentication, Authorization, and Accounting (AAA; 認証、認可、アカウント) 監査 (合格した認証) ロギング カテゴリ タイプの場合だけ使用可能です。

d. [Remote Syslog Target] タブをクリックして、[Remote Targets] を選択してログを表示します。

e. [Submit] をクリックします。

設定したロギング カテゴリが示された [Logging Categories] ページが表示されます。

5.2 ログ コレクタ サーバの ACS プロセスが実行中の場合は、すべての設定データ、監視およびレポート データ、およびレポートがアップグレードされます。

これで、アップグレードされたサーバは、ACS 5.2 プライマリ サーバおよびログ コレクタとして機能するようになります。

ステップ 12 ローカルおよび未処理の Certificate Sign Request (CSR) をインポートします。

『*User Guide for the Cisco Secure Access Control System 5.2*』の 15 ページ「[Importing Server Certificates and Associating Certificates to Protocols](#)」と 16 ページ「[Generating Self-Signed Certificates](#)」を参照してください。

ログ コレクタのアップグレードを確認するには、`MonitoringandReportingDatabase.log` ファイルをチェックします。データベース アップグレードにエラーがないことを確認してください。

完全バックアップを実行し、別のサーバで復元すると、バックアップしたサーバの IP アドレスが復元先のサーバに割り当てられます。

セカンダリ サーバのアップグレード

配置内の各 5.1 セカンダリ サーバを 5.2 にアップグレードするには、次の手順を実行します。

セカンダリ サーバのローカル証明書を実際に保存するには、ローカルおよび未処理の CSR をすべて配置内の各ノードにインポートする必要があります。「[PKI データおよび証明書のアップグレード \(P.7-9\)](#)」を参照してください。

セカンダリ ACS サーバをアップグレードする前に、サーバが非アクティブになっていないこと、およびローカルモードになっていないことを確認します。

ステータスを確認するには、セカンダリ サーバの Web インターフェイスから、`[System Administration] > [Operations] > [Local Operations] > [Join a Distributed System]` を選択して、セカンダリ ACS サーバのステータスを確認します。

ステップ 1 セカンダリ サーバがログ コレクタであるかどうかを確認します。

ログ コレクタである場合は、ログ コレクタ サーバをプライマリ サーバまたはその他の任意のセカンダリ サーバに変更します。ログ コレクタではない場合は、ステップ 2 に進みます。

- a. 5.1 プライマリ サーバから、`[System Administration] > [Configuration] > [Log Configuration] > [Log Collector]` を選択します。
ACS に、現在のログ コレクタ サーバが表示されます。
- b. `[Select Log Collector]` ドロップダウン リスト ボックスから、ログ コレクタとして設定する別のサーバを選択します。
- c. `[Set Log Collector]` をクリックします。

ステップ 2 セカンダリ サーバを 5.1 配置から登録解除して、スタンドアロン サーバになるように ACS 5.1 プライマリ サーバから削除します。

- a. `[System Administration] > [Operations] > [Distributed System Management]` を選択します。
`[Distributed System Management]` ページが表示されます。
- b. `[Secondary Instances]` テーブルから、登録解除するセカンダリ インスタンスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- c. `[Deregister]` をクリックします。
システムに次のメッセージが表示されます。
`This operation will deregister the selected ACS Instance from the Primary Instance.`
`Do you wish to continue?`
- d. `[OK]` をクリックします。

ACS マシンが再起動します。

- e. ACS 5.1 プライマリ サーバにログインします。
- f. [System Administration] > [Operations] > [Distributed System Management] を選択します。
- g. [Secondary Instances] テーブルから、削除するセカンダリ インスタンスの横にあるチェックボックスをオンにします。
- h. [Delete] をクリックします。
次のメッセージが表示されます。
Are you sure you want to delete the selected item/items?
- i. [OK] をクリックします。
[Distributed System Management] ページに、削除されたセカンダリ インスタンスのない [Secondary Instances] テーブルが表示されます。

ステップ 3 セカンダリ サーバデータをバックアップします。

ACS CLI から、EXEC モードで次の **backup** コマンドを発行して、バックアップを実行して、バックアップをリポジトリに入れます。

```
backup backup-name repository repository-name
```



(注) セカンダリ サーバをバックアップする前に、最新の ACS 5.1 パッチをインストールする必要があります。「ACS パッチの適用」(P.7-14) を参照してください。

ステップ 4 「ACS サーバの再イメージ化」(P.5-6) を実行します。

ACS が ACS 5.2 にアップグレードします。

ステップ 5 セカンダリ サーバを ACS 5.2 プライマリ サーバに登録します。

- a. [System Administration] > [Operations] > [Local Operations] > [Deployment Operations] を選択します。
[Deployment Operation] ページが表示されます。
- b. [Registration] ダイアログボックスの下にある次の必須フィールドに入力します。
 - [Primary Instance] : セカンダリ インスタンスを登録する 5.2 プライマリ サーバのホスト名。
 - [Admin Username] : 管理者アカウントのユーザ名。
 - [Admin Password] : 管理者アカウントのパスワード。
 - [Hardware Replacement] : 既存の ACS インスタンスをプライマリ インスタンスに再登録できるようにして、プライマリ インスタンスにすでに存在する設定のコピーを取得する場合にオンにします。
 - [Recovery Keyword] : このセカンダリ サーバが、以前に収集した監視およびレポートデータに関連付けられるように、5.1 配置で使用されていた同じホスト名を指定します。

この情報の送信後に、このインスタンスはプライマリ インスタンスに接続します。プライマリ インスタンスは、キーワードに基づいて、関連付けられた ACS インスタンスレコードを検索し、各レコードに登録済みのマークを付けます。

- c. [Register to Primary] をクリックします。
システムに次のメッセージが表示されます。

```
This operation will register this ACS Instance as a secondary to the specified Primary Instance. ACS will be restarted. You will be required to login again. Do you wish to continue?
```

d. [OK] をクリックします。

セカンダリをプライマリ インスタンスに登録すると、プライマリ インスタンスで作成された任意のアカウントを使用できます。プライマリ インスタンスで作成するクレデンシャルは、セカンダリ インスタンスに複製されます。

e. 再起動後に ACS セカンダリ サーバにログインします。

登録の完了後に、ACS は完全同期を実行し、ACS 5.2 設定データを 5.2 セカンダリ サーバに送信します。

ステップ 6 ローカルおよび未処理の CSR をインポートします。

『*User Guide for the Cisco Secure Access Control System 5.2*』の 15 ページ「[Importing Server Certificates and Associating Certificates to Protocols](#)」と 16 ページ「[Generating Self-Signed Certificates](#)」を参照してください。

プライマリ サーバのアップグレード

プライマリ サーバを 5.1 から 5.2 配置にアップグレードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 プライマリ サーバ データをバックアップします。

これを行うには、ACS CLI から EXEC モードで次の **backup** コマンドを入力してバックアップを実行し、バックアップをリポジトリに入れます。

```
backup backup-name repository repository-name
```

ステップ 2 プライマリ サーバがスタンドアロン サーバであることを確認します。

a. [System Administration] > [Operations] > [Distributed System Management] を選択します。
[Distributed System Management] ページが表示されます。

b. [Secondary Instances] テーブルにセカンダリ サーバがリストされているかどうかを確認します。
セカンダリ サーバがある場合は、5.1 プライマリ サーバをアップグレードする前にこれらのサーバをアップグレードします。「[セカンダリ サーバのアップグレード](#)」(P.7-6) を参照してください。

ステップ 3 ACS サーバを 5.2 にアップグレードします。「[ACS サーバの 5.1 から 5.2 へのアップグレード](#)」(P.7-11) を参照してください。

ステップ 4 サーバをプライマリ ACS 5.2 に登録します。

a. [System Administration] > [Operations] > [Local Operations] > [Deployment Operations] を選択します。
[Deployment Operation] ページが表示されます。

b. [Registration] ダイアログボックスの下にある次の必須フィールドに入力します。

- [Primary Instance] : セカンダリ インスタンスを登録するプライマリ サーバのホスト名。
- [Admin Username] : 管理者アカウントのユーザ名。
- [Admin Password] : 管理者アカウントのパスワード。
- [Hardware Replacement] : 既存の ACS インスタンスをプライマリ インスタンスに再登録できるようにして、プライマリ インスタンスにすでに存在する設定のコピーを取得する場合にオンにします。
- [Recovery Keyword] : このサーバが、以前に収集した監視およびレポート データに関連付けられるように、5.1 配置で使用されていた同じホスト名を指定します。

この情報の送信後に、このインスタンスはプライマリ インスタンスに接続します。プライマリ インスタンスは、キーワードに基づいて、関連付けられた ACS インスタンス レコードを検索し、各レコードに登録済みのマークを付けます。

- c. [Register to Primary] をクリックします。

システムに次のメッセージが表示されます。

```
This operation will register this ACS Instance as a secondary to the specified Primary Instance. ACS will be restarted. You will be required to login again. Do you wish to continue?
```

- d. [OK] をクリックします。

セカンダリをプライマリ インスタンスに登録すると、プライマリ インスタンスで作成された任意のアカウントを使用できます。プライマリ インスタンスで作成するクレデンシャルは、セカンダリ インスタンスに複製されます。

- e. 再起動後に ACS サーバにログインします。

- ステップ 5** このインスタンスを ACS 5.2 プライマリとして再度プロモートします。「セカンダリ サーバのプライマリへのプロモート」(P.7-10) を参照してください。



- (注) ステップ 4 は、ACS 5.2 プライマリ サーバとして機能しているセカンダリ サーバがあるか、またはログ コレクタ ノードをセカンダリ サーバにする場合だけ実行してください。

PKI データおよび証明書のアップグレード

ACS 5.1 Public Key Infrastructure (PKI; 公開キー インフラストラクチャ) クレデンシャル、ローカル証明書、および未処理の CSR は、証明書を再インポートすることによって ACS 5.2 に復元されます。

ACS 5.1 マシンを ACS 5.2 に再イメージ化すると、すべての PKI データが消去されます。ローカル証明書を保存するには、配置内のプライマリ ノードにローカルおよび未処理の CSR をすべてインポートする必要があります。

ローカル証明書を保存するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ACS 5.1 ターゲット マシンで、[System Administration] > [Configuration] > [Local Server Certificates] > [Local Certificates] に移動します。
- ステップ 2** ローカル証明書にチェックマークを付けます。
- ステップ 3** [Export] をクリックします。
- ステップ 4** 証明書と秘密キーをエクスポートします。
- ステップ 5** すべてのローカル証明書に対してステップ 2 ~ 4 を繰り返します。
- ステップ 6** [System Administration] > [Configuration] > [Local Server Certificates] > [Outstanding Signing Requests] に移動します。
- ステップ 7** CSR にチェックマークを付けます。
- ステップ 8** [Export] をクリックします。
- ステップ 9** すべての CSR に対してステップ 7 ~ 8 を繰り返します。
- ステップ 10** エクスポートしたすべての証明書と CSR を保存します。

ステップ 11 ターゲット マシン ACS 5.1 を ACS 5.2 に再イメージ化します。

ステップ 12 エクスポートしたすべての証明書と CSR をインポートします。

セカンダリ サーバのプライマリへのプロモート

セカンダリ サーバをプライマリにプロモートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 プライマリ サーバの Web インターフェイスから、[System Administration] > [Operations] > [Distributed System Management] を選択します。

[Distributed System Management] ページが表示されます。

ステップ 2 [Secondary Instances] テーブルから、プライマリにプロモートするセカンダリ サーバの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 3 [Promote] をクリックします。

システムに次のメッセージが表示されます。

This operation will promote the selected ACS Instance to become the new Primary Instance. As a consequence, the current Primary Instance will be demoted to a Secondary.

Do you wish to continue?

ステップ 4 [OK] をクリックします。

システムは、選択したセカンダリ サーバをプライマリにプロモートして、[Primary Instance] テーブルに移動します。既存のプライマリ サーバは、自動的に [Secondary Instances] テーブルに移動されます。

登録が完了すると、ACS は完全同期を実行し、ACS 5.2 設定データを新たにプロモートされたプライマリ サーバに送信します。

ACS Monitoring and Report Viewer のアップグレード

ACS は、Monitoring and Report Viewer のアップグレードをアップグレード中のサブタスクとして呼び出します。

ACS Monitoring and Report Viewer に使用可能な最大のディスク スペースは 150 GB です。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「アップグレード後の Monitoring and Report Viewer データの復元」 (P.7-11)
- 「データベースのアップグレード」 (P.7-11)
- 「レポートのアップグレード」 (P.7-11)

データベース アップグレードのステータスを確認するには、Monitoring and Report Viewer で、[Monitoring Configuration] > [System Operations] > [Data Upgrade Status] を選択します。

Monitoring and Report Viewer データ アップグレードのステータスを示す [Data Upgrade Status] ページが表示されます。

データベース アップグレードが完了すると、ACS に次のメッセージが表示されます。

Upgrade completed successfully.

アップグレード後の Monitoring and Report Viewer データの復元

5.2 へのアップグレード後にバックアップ データを復元したときに、変更が検出されると、ACS によって変更がデータベースとレポートに自動的に同期されます。

復元する時期ではなく、バックアップする時期のレポート データだけを使用できます。たとえば、6 月にデータをバックアップし、8 月に復元した場合、使用できるレポート データは 8 月ではなく、6 月のものだけになります。最新のレポート データを取得するには、再びレポートを実行する必要があります。

データベースのアップグレード

5.2 アップグレード後に、アップグレード前に作成したバックアップを復元すると、ACS には、データベース バージョンが **AVPair:DBVersion=5.2** として表示され、`av_system_settings` テーブルにスキーマ バージョンが **5.2** と表示されます。データベース プロセスの再開時に、ACS は ACS バージョンとデータベース バージョンを調べて、古いものがあつた場合はスキーマとデータのアップグレードを実行します。

レポートのアップグレード

5.2 へのアップグレード後に、アップグレード前に作成したバックアップを復元する場合、ACS によって、レポート タグに「**View 5.2**」が表示されているかどうかを確認され、Web プロセスの開始時に必要な更新が実行されます。

ACS サーバの 5.1 から 5.2 へのアップグレード

ここでは、ADE-OS および ACS 設定データのバックアップ、ACS の再イメージ化、およびバックアップ データの復元を行うためのステップについて説明します。

このアップグレード手順を実行するには、ACS ボックスへの物理的なアクセスが必要です。

ACS サーバをアップグレードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 ADE-OS および ACS 設定データを ACS 5.1 サーバからバックアップします。



(注)

ACS 5.1 データのバックアップには、必ず非ローカル リポジトリを使用してください。そうしないと、5.2 のインストール後に設定データが失われる可能性があります。

EXEC モードで次の **backup** コマンドを発行して、バックアップを実行して、バックアップをリポジトリに入れます。

```
backup backup-name repository repository-name
```

ステップ 2 「ACS サーバの再イメージ化」(P.5-6) を実行します。

ACS は、ADE-OS を 1.2 に、ACS を 5.2 にアップグレードします。

ステップ 3 バックアップしたデータを置くりポジトリを設定します。

ステップ 4 ADE-OS および ACS 設定データを ACS 5.2 サーバに復元します。

EXEC モードで **restore** コマンドを発行して、以前に作成したバックアップを復元します。

```
restore filename repository repository-name
```

ACS は ACS 5.1 設定データを復元し、アップグレードする間に、ACS 5.1 Monitoring and Report Viewer データの 5.2 形式への変換とアップグレードも開始します。

ステップ 5 データ アップグレードのステータスを監視するには、Monitoring and Report Viewer で、[Monitoring Configuration] > [System Operations] > [Data Upgrade Status] を選択します。

Monitoring and Report Viewer データ アップグレードのステータスを示す [Data Upgrade Status] ページが表示されます。

データベース アップグレードが完了すると、ACS に次のメッセージが表示されます。

```
Upgrade completed successfully.
```

ステップ 6 [OK] をクリックします。



(注)

異なる ACS サーバでデータベースを復元する際は、ACS サーバの IP アドレスと実行コンフィギュレーションを変更する必要があります。

ACS アプリケーションのバックアップと復元

ここでは、ACS 設定データのバックアップとバックアップデータの復元を行うためのステップについて説明します。このプロセスでは、ADE-OS はバックアップされません。

このアップグレード手順を実行するには、ACS ボックスへの物理的なアクセスが必要です。

ACS アプリケーションをバックアップし、復元するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 ACS 設定データを ACS 5.1 サーバからバックアップします。



(注)

ACS 5.1 データのバックアップには、必ず非ローカル リポジトリを使用してください。そうしないと、5.2 のインストール後に設定データが失われる可能性があります。

EXEC モードで次の **backup** コマンドを発行して、バックアップを実行して、バックアップをリポジトリに入れます。

```
backup backup-name repository repository-name application acs
```

ステップ 2 「ACS サーバの再イメージ化」(P.5-6) を実行します。

ACS は、5.2 にアップグレードされます。

ステップ 3 バックアップしたデータを置くリポジトリを設定します。

ステップ 4 ACS 設定データを ACS 5.2 サーバに復元します。

EXEC モードで **restore** コマンドを発行して、以前に作成したバックアップを復元します。

```
restore filename repository repository-name application acs
```

ACS は 5.1 設定データを復元する間に、ACS 5.1 Monitoring and Report Viewer データの 5.2 形式への変換とアップグレードを開始します。

ステップ 5 データ アップグレードのステータスを監視するには、Monitoring and Report Viewer で、[Monitoring Configuration] > [System Operations] > [Data Upgrade Status] を選択します。

Monitoring and Report Viewer データ アップグレードのステータスを示す [Data Upgrade Status] ページが表示されます。

データベース アップグレードが完了すると、ACS に次のメッセージが表示されます。

Upgrade completed successfully.

ステップ 6 [OK] をクリックします。



(注)

異なる ACS サーバでデータベースを復元する際は、ACS サーバの IP アドレスと実行コンフィギュレーションを変更する必要はありません。

ACS サーバの 5.0 から 5.1 へのアップグレード

ACS 5.0 サーバを ACS 5.2 にアップグレードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 ACS 5.0 データベースをバックアップします。

EXEC モードで次の **backup** コマンドを発行して、バックアップを実行して、バックアップをリポジトリに入れます。

backup backup-name repository repository-name



(注)

ACS 5.0 データのバックアップには、必ず非ローカル リポジトリを使用してください。そうしないと、5.1 のインストール後に設定データが失われる可能性があります。

ステップ 2 リカバリ DVD を使用して ACS 5.1 をインストールします。

ステップ 3 Cisco.com で入手できる最新の ACS 5.1 パッチをインストールします。

ステップ 4 ACS 5.0 データベースを復元します。

EXEC モードで **restore** コマンドを発行して、以前に作成したバックアップを復元します。

restore filename repository repository-name

ACS は、5.0 設定データと Monitoring and Report Viewer データを 5.1 形式にアップグレードします。

ステップ 5 ACS 5.1 データベースをバックアップします。

EXEC モードで次の **backup** コマンドを発行して、バックアップを実行して、バックアップをリポジトリに入れます。

backup backup-name repository repository-name



(注)

ACS 5.1 データのバックアップには、必ず非ローカル リポジトリを使用してください。そうしないと、5.2 のインストール後に設定データが失われる可能性があります。

ステップ 6 リカバリ DVD を使用して ACS 5.2 をインストールします。

ステップ 7 使用可能な場合は、最新の ACS 5.2 パッチをインストールします。

ステップ 8 ACS 5.1 データベースを復元します。

EXEC モードで **restore** コマンドを発行して、以前に作成したバックアップを復元します。

```
restore filename repository repository-name
```

ACS は、5.1 設定データと Monitoring and Report Viewer データを 5.2 形式にアップグレードします。

ACS パッチの適用

ACS 5.2 累積パッチは、次の場所からダウンロードできます。

<http://www.cisco.com/public/sw-center/index.shtml>

パッチをダウンロードして適用するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco.com にログインして、[Network Management] > [Security and Identity Management] > [Cisco Secure Access Control Server Products] > [Cisco Secure Access Control System] > [Cisco Secure Access Control System 5.2] に移動します。

ステップ 2 パッチをダウンロードします。

ステップ 3 EXEC モードで次の **acs patch** コマンドを実行して、ACS 5.2 累積パッチをインストールします。

```
acs patch install patch-name.tar.gpg repository repository-name
```

ACS に、次の確認メッセージが表示されます。

```
Installing an ACS patch requires a restart of ACS services.  
Would you like to continue? yes/no
```

ステップ 4 **yes** と入力します。
